

食料安全保障アドバイザリーボード第2回会合 議事要旨

日時 : 2021 年 3 月 17 日 (水) 10:30~12:00

場所 : Web 会議システムを用いたオンライン開催 (非公開)

出席委員 : 野口委員、平澤委員、渡辺委員、三輪委員、佐野委員、末川委員、中井委員

議題 : 食料の安定供給に関するサプライチェーン上の課題、世界の食料需給の動向

【議事概要】

(農林水産省より、資料に沿って「食料の安定供給に関するサプライチェーン上の課題」「世界の食料需給の動向」について説明。)

①生産面

- ・ サプライチェーンの可視化をしないと現状やボトルネックが分からないので、抽出が必要である。
- ・ グリーン化の動きは、生産側の大きな変動を見ながら、粒度を細かく見ていく必要がある。
- ・ 気候変動・環境リスクについては、水問題、病虫害等の多様な側面を想定しておく必要がある。
- ・ 一部の国で行われた輸出規制については、規制が行われた要因をしっかりと分析すべきである。
- ・ 仮に輸出が止まった場合のバックアップルートの模索や加工食品の表示の問題、備蓄の適切な在庫などを考えておく必要がある。

②製造・加工・流通面

- ・ 農業分野でも局地災害の際に、全体のリソース配分の仕組みが必要である。
- ・ コロナ禍における優良事例を収集し、今後の対策に繋げていく必要がある。

③消費面

- ・ グローバルサプライチェーンの潮流の中で、リスクマネジメントとして、地産地消のサイクルを有機的なサブシステムとして発展させていく必要がある。
- ・ 農産物流通のデジタル化、スマートフードチェーンを進めながら、消費行動を変容させる仕組みを整備しておくことが重要である。
- ・ デジタル化により備蓄の在庫等を管理し、効率的な放出を行うなど検討の余地があると考える。
- ・ 不測の事態が発生したために代替的な食料供給を行う際には、前向きなメッセージを発信していくことが大事である。

(以上)